2013年8月

大阪市立大学大学教育研究センター研究員各位

大阪府立大学FDセミナー
（兼 大阪市立大学第16回大学教育研究セミナー）
のご案内

7月の大学教育研究センター研究員会議でご案内したとおり、大阪府立大学主催・本学共催にて、下記の内容でセミナーを開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。

高等教育における内部質保証、特に学修成果の把握が重要課題として挙げられる現状のもと、高等教育における質保証の向上をめざして、欧州各国の教育制度と学習プログラムのチューニング（調和）を図るプロジェクトの報告書「欧州教育制度のチューニング - ボローニャ・プロセスへの大学の貢献 - 」（J. ゴンサレス・R.ワーヘナール編著）を訳された深堀總子先生をお招きし、その内容についてご教示いただくことにいたしました。

大きな改革が予定される両大学にとって、意義深いものとなることを期待し、開催いたしますので、ご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、市大からご参加いただける先生方は、会場である府大会議室の準備の都合上、お手数ですがその旨を、8月30日(金)までに市大大学教育研究センター共通メール center@rdhe.osaka-cu.ac.jp までご連絡下さい。何卒宜しくお願いいたします。

記

日　時：9月6日（金）15：30～17：00

場　所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス　B3棟-106会議室（1F）

講　演：「学習成果にもとづく学位プログラムの体系化
チューニングの世界的展開と日本への示唆」について
深堀　總子氏（国立教育政策研究所　高等教育研究部総括研究官）

【概　要】

異なる音階で楽器を奏でていた奏者が音階を同調(チューニング)させることによって、それぞれの旋律は、音楽作品を構成する要素として活かされることになります。同様に、大学が同じ言葉を使って大学教育について語り合えるようになることで、それぞれの大学教育の特徴は際立ち、学生自身、そして社会全体により分かりやすく伝わることになります。大学の多様性や自律性を損ねることにはなりません。

大学教育の文脈におけるチューニングとは、質保証枠組を共有する複数の大学、パートナーシップ関係を結ぼうとする複数の大学が、専門分野別の参照基準を共同で開発し、共有し、それにもとづいて体系的な学位プログラムを構築する方法を示すものです。その結果、単位や学位の等価性について大学間で合意を形成しやすくなり、学生の大学間移動が促進されることが期待されます。また、参照基準を開発する際に、学位プログラムをとおして学生が何を知り、理解し、行えるようになることが期待されるかという観点から取りまとめることによって、大学教育の社会的レリバンスが高まり、学生の大学から社会への移行も促進されることが期待されます。

チューニングは欧州で2000年に手がけられ、世界的に拡大してきました。大阪府立大学および大阪市立大学における教育改善の取り組みを検討される際の一助となれば幸いです。

[深堀總子氏（ふかほり・さとこ）プロフィール]

京都大学教育学部卒業、京都大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程退学、コロンビア大学大学院教育学研究科博士課程修了。専門は、比較教育学、教育社会学、高等教育研究、アメリカの教育政策研究。主要著書論文：「学習成果の評価―工学分野の取り組みを例に考える―」（『比治山高等教育研究 第4号』比治山大学高等教育研究所、2011年。『欧州教育制度のチューニングーボローニャ・プロセスへの大学の貢献ー』明石書店、2012年。）

主催：大阪府立大学高等教育開発センター
共催：大阪市立大学大学教育研究センター